

# わだ 和田地区

## ●村の変遷●

明治22年(1889)、永田村、橋羽村、篠ヶ瀬村、北島村、薬師村、薬師新田村、安間村、安間新田村、半場村、龍光村、長鶴村の十一の村が合併し橋田村が誕生しました。その後、明治24年(1891)和田村と改称。昭和29年(1954)に浜松市に合併しました。

### ①金原明善翁生家

C-6

金原明善は、度々大洪水を引き起こしていた天竜川の治水事業に、生涯をかけて取り組みました。また静岡県民会議員等を歴任し、地域のために働くとともに、和田小学校の前身である安間学校を創立し、和田小学校・芳川小学校に寄付金を出すなど教育にも力を注ぎました。こうした功績を後世に伝えるため、生家にはたくさんの遺品が展示されています。

### ②法橋の松

C-6

県道中野子安線沿い天龍川町内の妙恩寺より、300mほど西に「法橋の松」と呼ばれる松の巨木があります。これは開基金原法橋の屋敷の前庭にあったもので、地上2mでの幹周りが約5m、枝張り約12m、高さ約9.5m、樹齢約700年といわれており、県指定の天然記念物となっています。

### ⑥笹ヶ瀬隕石

C-6

増福寺の西に元禄17年(1704)2月16日に落下した隕石が伝わっています。隕石は拳ほどの大きさで昭和25年(1950)まで玉薬師如来として本堂に安置されていたが、現在は浜松市科学館で公開されています。



### ⑦八柱神社

C-6

樹齢数百年、二抱えもある黒松62本が境内にそびえています。拝殿正面の額は山岡鉄舟の揮毫で、拝殿内の額の揮毫者は、有栖川宮熾仁親王です。

### ⑧長伝寺

C-6

寺の歴史は古く、数百年前に建立されました。本堂西側の墓苑の入口には長伝寺に住んで人々に尽くし、尊敬され慕われた医師村尾多聞の墓があり、「刑部村尾先生之墓」と刻まれています。

### ⑨妙恩寺

C-6

日蓮宗の名刹です。金原明善の慰霊塔の他、徳川家康公御手植えとされる柘植の木などがあります。

### ⑩諏訪神社内・小國源一郎顕彰碑

D-6

入口の石鳥居左手に「國源靈神故小國源一郎」のひときわ大きな碑があります。小國氏は木材加工の機械化で製材産業の能率化と発展に貢献しました。

### ③木船廃寺跡

C-6



飛鳥時代から奈良時代にかけて(7世紀後半～8世紀)壮麗な伽藍をほこった市内最古と言われる寺院跡が埋まっています。木船廃寺は、単独で立地する寺院ではなく、長田郡(長上郡)の役所に付随する施設であったと思われま。平成22年(2010)の発掘調査で、大量の古代瓦が見つかり、「幻の寺」であった木船廃寺の位置が特定できました。

### ④東海道の松並木

C-6



江戸幕府が江戸を起点とする街道整備に着手した際、東海道を京都に至る重要な街道として松を植え松並木としました。東海道には、中ノ町、和田、蒲の三地区を貫き松並木があったと言われていますが、道路の拡幅等により残っているのは和田地区だけとなりました。

### ⑤安間川公園

C-5

テニスコートや野球場などが整備されており、市民の交流の場として利用されています。また、災害時には、避難場所として利用され、避難者を保護する機能を担う広域避難地公園に指定されています。

### ⑪まるがた通路

D-6

東海道本線復線化開通に伴い、アーチ型の煉瓦づくり通路として建設されました。



### ⑫天龍運輸発祥之碑

(てんりゅううんゆはっしょうのひ)

明治22年(1889)東海道本線開通に伴い、明治25年(1892)に木材や鉱物などの輸送を考えた金原明善翁が、天竜川駅から引き込み線を敷設、浜松駅出張所を開設しました。

### ⑬普傳院の千体堂

D-6

戦国時代、天竜川沿いの戦いで討ち死にした、徳川、武田双方の軍勢を供養するため、村人の浄財で千体の木彫仏を安置した千体堂を姫街道沿いに建立したと伝えられています。現在、その千体堂は、普傳院に移築されています。

